

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立各務原西高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月25日(金) 13:30~15:00
※会議に先立ち、授業参観を実施。
- 3 開催場所 各務原西高等学校会議室
- 4 参加者

学校側	会長	長谷川哲也	岐阜大学教育学部准教授
	委員	杉山 淳子	臨床心理士
		波多野達也	各務原市役所産業活力部課長
		江崎真理子	江崎真理子税理士事務所代表
		遠藤 正彦	地域住民代表
		黒田 晴代	第14回卒業生
		足立 聡	P T A会長
		田中 幸子	P T A副会長
		増田 泰志	校長
		高野 圭	教頭
		原 和幸	教務主任
		向井 好美	生徒指導主事
		安藤 桂子	進路指導主事
		林 えり	特別活動部長
		山本 通広	探究部長
山本 晃久	研修部長教兼務部副主任		

5 会議の概要（協議事項）

(1) 今年度の取り組みと課題について

学校評価アンケートの分析と各分掌の方針

教務

- ・授業配信のための回線が4回線から3回線となったが、配信を希望する生徒に対し柔軟に対応することができた。また、授業だけでなく集会や講話など目的に応じてWeb配信を行うことができた。
- ・研修主事の配置により、職員研修の目的がより明確化され、新たに3年計画で体系化した校内研修の計画と実施をすることができた。
- ・Classiの活用を進め、欠席者への授業配信用の教材配信・授業指示だけでなく、通常授業でも課題提出などに活用した。学習時間調査にも利用し、集計結果を指導資料として活用することができた。
- ・観点別学習状況評価の基準に対し、各教科で検討を深めることができた。
- ・今年度からHPに年間計画を掲載したためか「行事予定を教えて欲しい」という電話での依頼は大幅に減少した。今後も、必要な情報の発信依頼については柔軟に対応したい。
- ・校内研修3年計画の1年目を振り返り今後に向けて検討・改善をしていく必要がある。
- ・観点別学習状況評価の基準について、より良い評価方法に見直しをしていくことが課題である。
- ・担当している業務について、重要度・緊急度などを適切に判断して、業務量の低減をさらに進めていくことが必要である。

生徒指導

- ・校門での生活委員や部活動生徒のあいさつ運動や校門指導により、生徒のあいさつや身だしなみの意識を高めることができた。
- ・様々な行事や活動がコロナ前に戻りつつある中で、友人関係トラブルも発生したが、いじめ事案になることを想定して組織的に対応する体制をとることができた。
- ・登校指導や遅刻指導で生徒への声掛けや生徒観察を行い、予防的指導を積極的に行うことができた。
- ・スクール相談員が配置されて、昼休みに「ブレイクルーム」を開設していただいたことにより、配慮が必要な生徒に対してきめ細かな指導をすることができた。また、スクールカウンセラーの先生による生徒・保護者への助言により、生徒が学校生活に戻ることができたケースが多数あった。
- ・安易な遅刻・欠席が増加している。「次代を担う社会の一員となるために必要な倫理観や規範意識」を身に付けさせて送り出すようにする必要がある。

進路指導

- ・年次ごとに外部講師による進路講演会を実施し、進路目標達成のために必要な力や心構えなどを聞くことで、進路意識の向上につなげることができた。
- ・「進路だより」を適時に発行し、その時期に必要な情報を伝えることができた。
- ・自律的に学習できる環境を整え、自主的に学習する生徒の支援ができた。
- ・土曜補習や夏季補習においてハイレベルな講座を開講することで、大学入試に対応できる力をつけることができた。
- ・3年間を見通したキャリア教育の在り方を考え、より効果のある進路ガイダンスや進路講話・進路探究の内容を設定する。
- ・進路意識を高めると同時に、進路目標の具現化に向け何が必要なのかの意識づけを図り、自律的な学習へと繋げ、目的意識をもって進学できるように指導する。
- ・学校推薦型選抜や総合型選抜に対して、全校体制での指導の在り方を検討する。

特別活動

- ・ 執行部と各委員会および議会とが連携し、コロナ前と同様の青桜祭などの実施に向けて取り組むことができた。
- ・ 文化祭や体育祭・球技大会に向けて、生徒主体で運営できるようになってきた。
- ・ コロナ前・コロナ禍それぞれの活動のメリットを生かしながら、部顧問が互いに連携し、限られた活動時間内で充実した活動を行った。
- ・ 各務原特別支援学校との直接交流が相互に実施できた。また、社会福祉協議会などと連携して行う募金活動や、生徒が自主的に行った清掃活動などで、地域社会の一員である自覚を高めることができた。

意見1：将来的には「ものづくりのまち」である各務原市にもどって来る人間教育、人材育成をお願いしたい。

意見2：一人ひとりの進路にあったカリキュラム編成は、単位制の強みであると思う。

意見3：各務原西高校や他の高校をみて、高校選びは重要な要素であると思った。

意見4：生徒や先生に必要とされることは、年々増すばかりで大変だと感じている。

意見5：春の時点と比較して、生徒先生ともにリラックスしている様子が見えかけた。

意見6：本日のような悪天候でも生徒の出席率が高く、学校が好きなのだと感じた。

意見7：3年次の生徒に対して、進路の情報がたくさん共有されたのはありがたかった。

意見8：先生からの指導の手厚さに驚きと感謝をする一方で、負荷が大きいのではないかと心配している。

意見9：今年度からはじまったClassiでの出欠連絡は時代の流れを良い意味で感じた。

意見10：Classi機能であるベネッセの情報量の多さに、理解せねばならないことへの不安も感じた。

意見11：教科「情報」や、クレジット（カード）の利用など、時代の流れを感じる授業に驚いた。

意見12：生徒の挨拶について、声が小さい生徒や無表情の生徒なども含めた千差万別の対応があり、全体的にもっと元気な挨拶を返してくれるとよいと感じる。

意見13：校舎の細部で汚れが目立つ箇所もあるので、業者による清掃などを検討してもよいのではないかと。

意見14：昨今の多様な進路選択や、その機会を育むために、学力一辺倒ではない学校運営も必要ではないかと考えさせられた。

6 会議のまとめ

- ・ 全委員より意見・要望をお寄せいただき、今後の学校運営の方向性や改善点についての有益な情報を得られた。
- ・ 全委員より現在の本校の学校運営について肯定的評価が得られた。